

二〇二六年度 大学院入学試験問題【Ⅰ期】

文学研究科 日本文学専攻 (博士前期課程)

科目: 論文: 専門科目 (読書使用: 不可)

解答は解答用紙に記入すること

【問題一】 自分がこれまでにもっとも強い感銘を受けた、日本文学・漢文学・比較文学の作家・作品、および国語学の研究書について、論述せよ(上記のテーマのうちから、一つだけを選んで、構造的論述をせよ(あらためよう))。

【問題二】 次の(一)～(二十)の問題のうちから、二題は消して解答せよ。なおそのうちの二題は、必ず自分の志望する時代・分野の問題を選び、あらためて解答せよ(たとえば、日本文学専攻であれば、(五)と(十)を選び、それ以外の問題から任意に二題選ぶ)。

《日本古代文学Ⅰ》

- (一) 紀紀家説と高橋家説との違いについて説明せよ。
- (二) 中国の漢書『藝文類聚』が奈良時代以前の日本文学に与えた影響について説明せよ。

《日本古代文学Ⅱ》

- (三) 清少納言と紫式部の著作から読み取れる二人の関係性について、知らるところを述べよ。
- (四) 次の本文は、『竹取物語』の一節である。源朝敵を家代降参した上で、この作品の成書を受けた平安時代の文学作品について述べよ。

この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

《日本中世文学》

- (五) 鎌倉時代に成立した物語とその特色について、知らるところを述べよ。
- (六) 地獄を題材とした中世の文学と絵巻との関係について具体例を挙げつつ述べよ。

《日本近世文学》

- (七) 読書雑誌三三三について、代表作品にふれつつ、知らるところを述べよ。
- (八) 『天竺来番船』について、作者名を明記しつつ、知らるところを述べよ。

《日本近代文学Ⅰ》

- (九) 第一文藝雑誌について、具体的な作家や作品名をあげながら論述せよ。
- (十) 読者大衆化論争について知らるところを述べよ。

《日本近代文学Ⅱ》

- (十一) 一九四五年から一九五五年までに刊行された雑誌の重要な論議をひとつ挙げ、知らるところを述べよ。
- (十二) 近・現代詩と雑誌の関係性について知らるところを述べよ。

《日本近代文学Ⅲ》

- (十三) 『浮城文』の展開について述べよ。
- (十四) 夏目漱石は日本の近代化をどのようにとらえていたと考えられるか、論ぜよ。

《国語学》

- (十五) 日本語の助詞・助動詞について、知らるところを述べよ。
- (十六) 日本語の方言分布について、知らるところを述べよ。

二〇二六年度 大学院入学試験問題【Ⅰ期】

文学研究科 日本文学専攻(博士前期課程)

科目: 論文:専門科目 (辞書使用:不可)

解答は解答用紙に記入すること

【漢文学】

(十七) 次の文章を読んで次の問いに答えよ。(送り仮名を省いた箇所がある)

この問題は、著作権の関係により掲載できません。

(河野遼「報任少卿書」、『文選』による)

【注】

園田——平城。

少卿——河野遼がこの書を送った任安の字。

問一 傍線部①を、書き下し文にせよ。

問二 傍線部②を、書き下し文にし、口語訳せよ。

(十八) 日本における『唐詩選』の受容について説明せよ。

【比較文学】

(十九) 日本詩作家を一人選び、その作品における日本文化の表現について分析せよ。

(二十) 日本の近現代作家を一人選び、その文学が受けたヨーロッパ文学の影響を記述せよ。

解答は、別紙の解答用紙に行なうこと。以下の条件に記してはならない。